

地震発生時のタイムライン

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認(火が出たら、落ち着いて初期消火)
- 家族の安全を確認(倒れた家具の下敷きになっていないか確認)
- 靴を履く(家の中はガラスの破片が散乱。靴やスリッパをはく)
- 避難するときの注意(屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊等)



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 黄色いタオルで無事を知らせる(下記参照)
- ケガ人、行方不明者はいないか確認

出火防止 初期消火

- 消火器やお風呂の水を使う
- 漏電・ガス漏れに注意(電気のブレーカーをおろす、ガスの元栓を閉める)



5分

ラジオなどで正しい情報を

- 役場、防災機関の情報を確認
- デマに惑わされないようにする
- 車で避難しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分
数時間

協力して消火活動、救出・救助活動を

- ローリングストック法(P12)で備蓄した水・食糧を食べる(1週間(最低3日間)の飲料水と食糧を備蓄しておく)
- 災害・被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 近くの人の安否確認・救出・救助



黄色いタオルで安否確認

～ 大地震時に黄色いタオルで無事を知らせてください～

家にいる家族が全員無事なら玄関先に黄色いタオルを掲げてください。

- 「うちは大丈夫!」を知らせる目印になります。
- 安否確認が迅速に行えることで、救助が必要な人を早く発見できます。



地表震度分布図



嵐山町の予測震度が最も大きくなる関東平野北西縁断層帯の震度分布を250mメッシュで表示したものです。

震度と揺れの状況

震度 5弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがある。

震度 5強

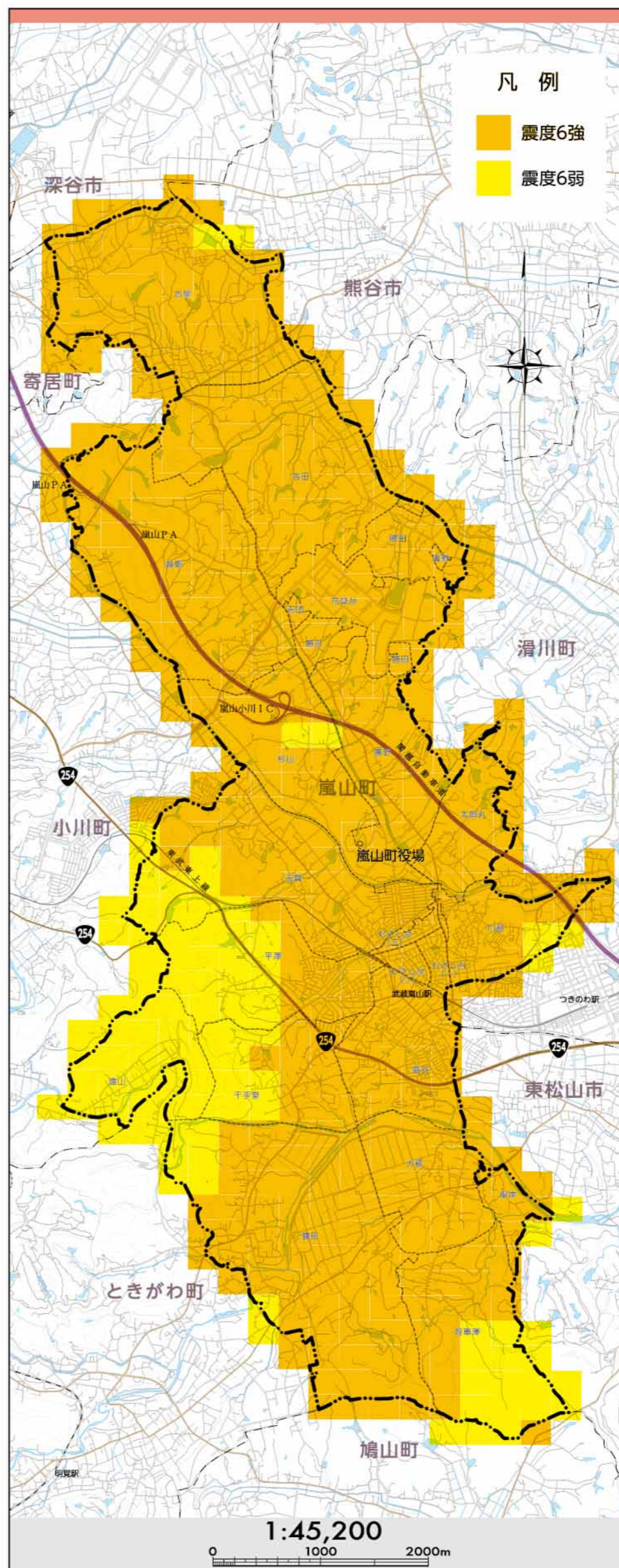
- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建築は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。

震度 6強

- 這わないと動くことができず、飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建築は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや傾斜地の崩壊が発生することがある。



出典：埼玉県地震被害想定調査報告書(平成26年3月)

「震度と揺れの状況」出典：気象庁